

自然を破壊

ポイ捨て空き缶

海へ、山へ——夏のレジャーもいまがピーク。ところが、いざ目的地に着いてみると、そこら中にとどこかまわらず空き缶が投げ捨てられてる——。これでは、せっかくの楽しい気分もどこへやら、です。

しかし、そんな不愉快な思いをしたあなた自身は、ついうっかりと空き缶を捨ててしまったという覚えはありませんか。

「一度くらい」、「一つだけ」……こうして投げ捨てられた空き缶が街を汚し、自然を損ない、「空き缶公害」とまでいわれる問題になっています。そのうえ、空き缶の「ポイ捨て」は、省資源・省エネルギーの点でも大きなマイナス。わたしたち一人ひとりが心したものです。

やめよう
「ポイ捨て」

空き缶をポイ捨てたことのある人に、なぜ?と尋ねると、一〇人のうち四人までが「近くにゴミ箱がなかったから」という答えが返ってきます(環境庁・モニター調査)。

そのほか、割合の多い順に、「ポイ捨て」の理由を挙げますと、「自動車に乗っていて始末に困ったから」(一五%)

「ゴミ箱のあるところや家まで持っていくのが面倒だったから」(一二%)
「ゴミ箱などがいっぱいだったから」(九%)

「みんなが捨てていたから」(八%)

ちょっと冷静になって考えれば、このような「理由」がいかに自分勝手なものか、すぐわかります。「人目につかないと思っただから」(四%)——ときは、何をかわんやです。

捨てられた空き缶は、清掃事業にたずさわる人か、ボランティアの人か……だれかが拾わなければならぬのです。「ポイ捨て」は、だれかの手をわずらわすモトをつくっているようなもの。空き缶は所定のゴミ箱などに捨てるか、持



菱中生徒による空き缶拾い

ち帰りを励行していただきたい。また、できれば戸外でジュースなどを飲んだとき、その空き缶とついでにもう一つ二つ、近くに転がっている空き缶を始末してみてください。こうした一人ひとりの小さな取り組み、協力が、清潔なわが町・美しい自然を守るとともに、資源の節約を進める大きな力となるのです。

空き缶は 貴重な資源

一年間に、わが国でつくられるジュース・ビールなどの飲料缶は、なんと百億個。スチール缶、アルミ缶、スチールとアルミの「混合缶」の三種類ですが、これらをつくるのに約四〇万トンの鉄と、三



万トン余りのアルミが使われています。そして、それらの製造原料はもちろん、製造に必要なエネルギー源である石油も、ほとんど輸入に頼っているのが現状です。なかでもアルミ缶は、電力のかたまりともいわれるほどで、一年間に製造される二〇億個のアルミ

缶は、生活の中で消費するエネルギーが、多くの人たちの協力の上に成り立っていることを忘れてがちです。いま、わたしたちにとつて必要なのは、日本の半分にも満たないエネルギー消費水準にとどまっている国の人々や、もっと厳しい生活条件を受け入れなければならぬ次の世代への、「小さな気くばり」から行われる省エネです。

缶をつくるのに、約三〇万世帯の家庭用電力一年半分に相当するエネルギーが使われます。ところが半面、アルミ缶は比較的容易に再生できるという長所があるので、回収した空き缶を再資源化すれば、消費電力は、新しく製造する場合の二七分の一ですみます(スチール缶は三分の一)。

空き缶は、「価値ある資源」。ポイと捨てないで、分別収集などの回収・再資源化のルートにのせましよう。

防止散乱
統一美化
マーク



この夏小さな気くばり 大きな省エネ

わたしたちは、毎日を便利に快適に過ごすために、石油をはじめとするさまざまなエネルギーを利用して資源のほとんどを輸入に頼っているわたしたちは、これからの生活を守るためにも、限りある資源を大切に使用しなければなりません。

豊かさに慣れてしまったわたしたちは、生活の中で消費するエネルギーが、多くの人たちの協力の上に成り立っていることを忘れてがちです。いま、わたしたちにとつて必要なのは、日本の半分にも満たないエネルギー消費水準にとどまっている国の人々や、もっと厳しい生活条件を受け入れなければならぬ次の世代への、「小さな気くばり」から行われる省エネです。

クーラーを使うときは冷やし過ぎないようにする。テレビを時計代わりにしないで、見ていないときは消す。だれもない部屋の電灯は消す。冷蔵庫は壁から一〇センチ以上離して置く——こういった当たり前のことや、ちょっとし

た工夫が、地域・町・そして国全体となって大きな省エネに結びつくのです。

八月は例年、電力消費量がピークに達する時期です。「チリも積もれば山となる」ように、わたしたち一人ひとりの、「気くばり」を積み重ねて、「大きな省エネルギー」の山を作りましょう。

